初詣で

梅沢信一

今年の正月は久しぶりに元日を郷里人吉で迎えた。雑煮がすむと、殊勝にもお宮参りを思いついた。子どものころのお参りに行かされた青井神社である。昔は球磨川にかかる橋が近いところになく大分遠回りしていたものだがいまは立派な橋がかかってほとんど直線コーで神社まで行けるようになった。珍しく小雪のチラチラする寒い日であるが、十五分も歩くと神社正面の蓮池に出る。「六調子」に歌われる〃前は蓮池桜馬場よいやさー〃の蓮池である。

蓮は枯れて一面に折れ下り荒涼とした感じであるが、それはそれで冬の景物として面白いものである。ただ池には紙くず、空鑵などがひどくたくさん投げ込まれていて不愉快な心持ちになる。まるで熊本市内を流れる二の井手、三の井手を見るようで、何とか暮れの中に掃除出来なかったものだろうかと思う。

池の中央に勾配の急な石造りの眼鏡橋がかかっていて、それを渡ると縁日の屋台店がズラリと並び、写真屋なども出張して、綺麗な着物の娘さんや家族連れのポーズにいろいろ注文つけている。重要文化財とかになっているという立派な楼門をくぐると広い境内である。すぐ横にお守りを売る?所があり、いろいろな形のお守りがならべてある。自分も車を運転するので交通安全のお守りを一つとは思ったが、いま持っているお守りの「ききめ」がまだあるように思えたので止めにして拝殿に進む。多勢の人のうしろから十円玉を投げてパチパチとやって拝む。

久しぶりに青井神社に来た事でもあるし、ついでのことに境内をぐるっと一回りして見た。今まで気のつかなかった事だが、境内にはお稲荷さんとか誰を祭ったものか説明がついてないのでわからぬが、お宮の形をした小さい建物が四つ位ある。片っぱしから拝んで回る。

社殿を一回りすると、天幕が張ってあり、その中で赤い袴をつけたアルバイトらしい巫女(みこ)が参拝者にお神酒(みき)を振舞っている。中学生らしい女の子が多勢集まってうれしそうに飲んでいるのに加わって一杯だけ頂いたが、二級酒のような味であった。境内の木の枝にべったりとおみくじを巻くのはどういうわけか知らないが、それを見ると自分もことしの運勢をうらなう気になり一本引いた。

「第七番・末吉」と出た。七番と八番とどっちが良いのかわからぬが吉という字もあるからには少しは良いのかも知れぬ、と次を読むと「日西に入るが如し」となっている。

日が東に入るというのなら大変な事だが西に入るのは当然の事であるから今年の運勢もまあまあ普通位のところかなと思う。それでも斜陽産業という言葉もあることだし、やはりロクなことはないようだ。運勢の項では「及ぶ限り身をへり下り、何事にも我から進んでなさざるをよしとす」とある。物事に積極的でない自分にとっては打ってつけの有難いご託宣である。その他「待人」「失物」「争事」「転居」「縁談」「出産」等々につきそれぞれかんばしくない説明がついているが、いずれもいまの自分には関係のないことなので平気であるが、「病気」の項だけは関係が出来るかも知れぬので注意して読む。

「よろしからず、医者をえらび、信神を忘るべからず」ときた。医者をえらび、信神を忘れなければ必ず治るとなっていないので困る。

「よろしからず」にもいろいろ程度があることと思って見るが、まかり間違えば来年の正月は初詣でも相かなわぬ次第ともなりかねない。

熊本に帰ってその話をすると友人の曰く、「やっぱ正月つんごたっときゃ、どこでん凶のごたる悪かくじゃ入れときなはらんけん、そっが一番悪かくじかもしれんですばい」と。

そろそろ年貢の納めどきかと思う次第。

(熊本大学教授)

〔訂正〕前号の随想欄「日日雑感」の中で十三行目の(山小屋で…)は(山麓で…)の誤りでした。おわびして訂正いたします。(編集係)

新しい年に思うこと

熊本県知事
寺本広作

昨年の暮から正月にかけて、私はたくさんの人にお目にかかる機会がありました。そして、県政についてのいろいろのご意見やお話を伺う機会に恵まれたのでございますが、その中で一、二心に留まったことを申し上げて、皆さんのご参考に供したいと思います。

一つは、〃昨年は飛行場や、高速道路を起工式までこぎつけて、非常に良かった、しかし、飛行場や高速道路をつくるということは、どこまでも手段であって、目的ではない。目的を忘れんようにやんなさいよ〃というお話でございまして、私は大変有難い注意だと思って伺いました。お話を聞いて私は、なるほどと思いました。

この間、アポロ八号が月を巡って帰ってきました。しかし、アポロ八号というのはどこまでも、あれを打ち上げるというのは手段であって、目的は月世界の科学的な探究にあります。その目的を忘れんようにせにゃいかんという意味の話だったのだなあと思いました。私たちが飛行場をつくり、高速道路をつくっているということは、あくまでも熊本県の繁栄、熊本県の経済開発に役立てようという目的のためであると、そしてその事を忘れてはいかんというご注意だなと思いました。飛行場も高速道路も、今やっと建設の緒についたばかりでまだまだこれを完成させるには、幾多の困難や苦労がいるわけです。しかしこれが予定どおり完成した場合、それを県の経済的な発展、繁栄と結びつけ得るかどうかということが勝負どころになってくると思うわけです。

たゆまぬ努力で、郷土の繁栄を

まだまだ道は遠いと思います。これから、お互いは、こういう着手した事業の竣工を急がなければならないと思いますが、それと同時に、今日只今から行政の各部門で、このような飛行場や高速道路をこれから県の経済開発にどうやって結びつけていくか。また観光にどうやって役立てるか、工場誘致にどういうふうに結びつけていくか。さらに商売の取り引きにこういうのをどういうふうに役立てていくか、輸送力の強い農業生産にこれをどうやって役立てていくか、今日只今から、そういうのを具体的に研究し、お互いが調査を進めていく必要があるのではないかと思うのです。

新熊本空港も九州縦貫高速道路も、もう着手してだいぶん長いことになります。高速道路の期成会をつくって約九年、飛行場にとりかかってからもうことしは四年目に足を踏み入れるわけです。

年頭にあたって、私たちは長い期間にわたってこれから不断の努力を続けていかなければ郷土の繁栄を達成することは困難だということをよく心の底にたたみ込んで行きたいと思うのです。

また、お話を申し上げた他の一人の方はこういうことも言われました。〃高原農業開発、これは非常に雄大な構想であるし良い仕事であるに違いない。ただそれを実施していく、それを取り上げるに当っては新産都市の二の舞にならんようにしなければならない〃というご注意でした。熊本県の重要な課題になる政策を決定す